

特集



未来を変える

VRで未来を変える。大げさなタイトルと思われたかもしれません。VR技術はますます発展を遂げていき、今や触覚もふくめた五感までも体験できるようになってきました。またVRを体験するためのデバイスも、高品質で比較的廉価なものが普及し始め、確実にVRへのハードルは下がってきています。VR技術が今後発展していくことは疑いようがないでしょう。

しかし、VRという看護教育にとって新たな技術を、単に新しいという理由で、未来を変える教育ツールとして、ご紹介しようとは思っていません。VR「で」未来を変える、というタイトルには、開発者たちの、看護、ケア、そしてその教育で感じている問題点を、多職種で専門知を結集していきながら、看護教育を改善していこうとするパワーを込めています。

そういう意味で、今回ご紹介する、日本で初めての看護教育用VRが、認知症をテーマにしたものだったのは、必然だともいえます。認知症は、医療専門職だけでなく、介護や家族、社会全体で取り組んでいくもの。いわば、多職種の知が結集している場です。たとえ非看護職であっても、看護、看護教育に期待されている方が大勢いらっしゃると思います。そうした方々の声が、エールとなって皆様に届くことを祈念します。

そして本特集が、日々の看護教育に悩まれ、改善を試みられている方々に、楽しみながらイノベーションを起こすことの、お誘いになれば何よりの喜びです。